

ふるさと熊野

筆道資料の探訪

芸州筆とその功労者碑

熊野町の主要物産である筆の製造は天保初年の頃に創まり爾來、時に盛衰はあったが常に全国に商工移出し芸州筆としてその眞価を認められて來ました。

町の毛筆製造販賣業者等は明治二十七年頃、同町の象徴である「筆の碑」を建設する計画があったがその当時、日清戦争の余波を蒙って遂に完成しなかつた。

其後十箇年を過ぎた同三十七年に至り但馬国城崎の「筆世界主筆」堀江但城氏が熊野筆視察の為に來熊その際「斯くの如く堅実に發展せし毛筆業なるに何故未だ碑の建設をなさざるや寔に遺憾千万なり」と言ひ單身辨当持にて附近の山間に分入り数日を経て漸く適當の石を發見す。

同氏は自から人夫を使役し五十余円を投じて之を運び出せしが偶ま日露戦争起りし為再び頓挫し爾來打続き殆ど立消となつた。

然るに昨大正六年の春、建碑の事が又も一部人士の話題に上り之が動機となつて人氣甚だしく昂上し費用には公費を支出するも差支なしと迄運びしが却つて計画遂行上に幾分の弊害を生ずるおそれのあるに付、同業者一統より釀金する事に決し同年八月十七日建碑委員等は候補地の同町神山神社の境内を検分し或は数回其協議会を開きし等事案

は弥具體的に進捗していった。

而して今日まで尚、碑の建設されない理由は此の碑面に刻むべき熊野筆に功績のあった人物の調査に時日を要する次第で才兵衛こと孫井田庄次郎氏は既に碑面に刻まるべく決定して居るも其他、約四名の偉勲者選択に關し種々異論もあり目下調査中であるとの事です。

(熊野町制施行日 大正七年十月一日)

芸備日日新聞

熊野町神山神社境内の大杉側に次の石標があります。

文化八年辛未閏二月吉日 当村呉地庭

奉寄進石階 願主 孫井田庄次郎

之が中島屋才兵衛こと孫井田庄次郎で八幡社の九十九段石階が彼の寄進したものである事を知る事が出来ます。

石段を登つて正面の玉垣左右に次の様な銘文があります。(玉垣は熊野町重要文化財申請中)

右

奉獻願主 孫居田正三郎

安政六巳末 九月吉辰

左

奉獻願主 渡辺 勘三郎

安政六年 九月吉祥日

となつています。

孫井田(藤井)庄次郎は安政三年辰七月十八日、死去していますから右正三郎は孫井田の二代目に当たります。

芸州筆の功労者として筆碑の面に刻まれる予定であつた庄次郎他四

名は果して誰が候補者であったのか七十余年絶った現在では知る由もありません。

左渡辺勘三郎は住屋貞右衛門と共に藩から国産、新庄墨の賣捌方を命ぜられた勘三郎（半田）と思われます。

昭和二十二年、熊野町商工会の名に於て毛筆元祖頌徳碑が設置されたがその頃には先の芸州筆功労者碑計画は忘れ去られ、決定していた孫井田庄次郎も熊野筆の恩人である住屋貞右衛門の名も碑面に刻まれませんでした。